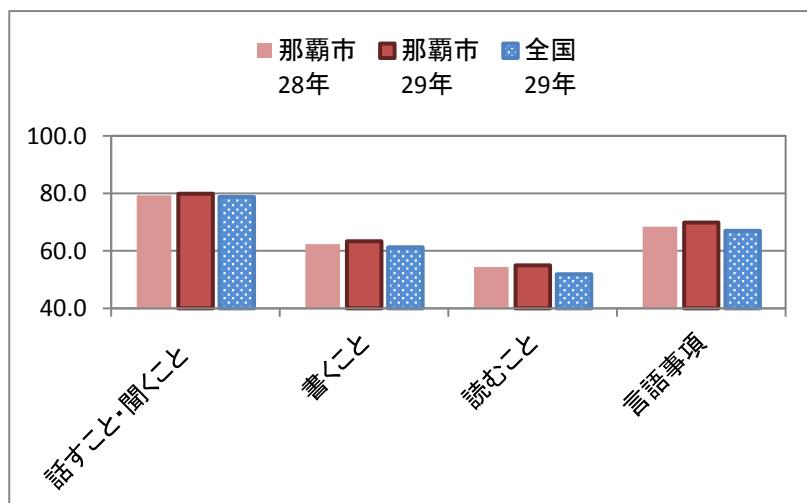
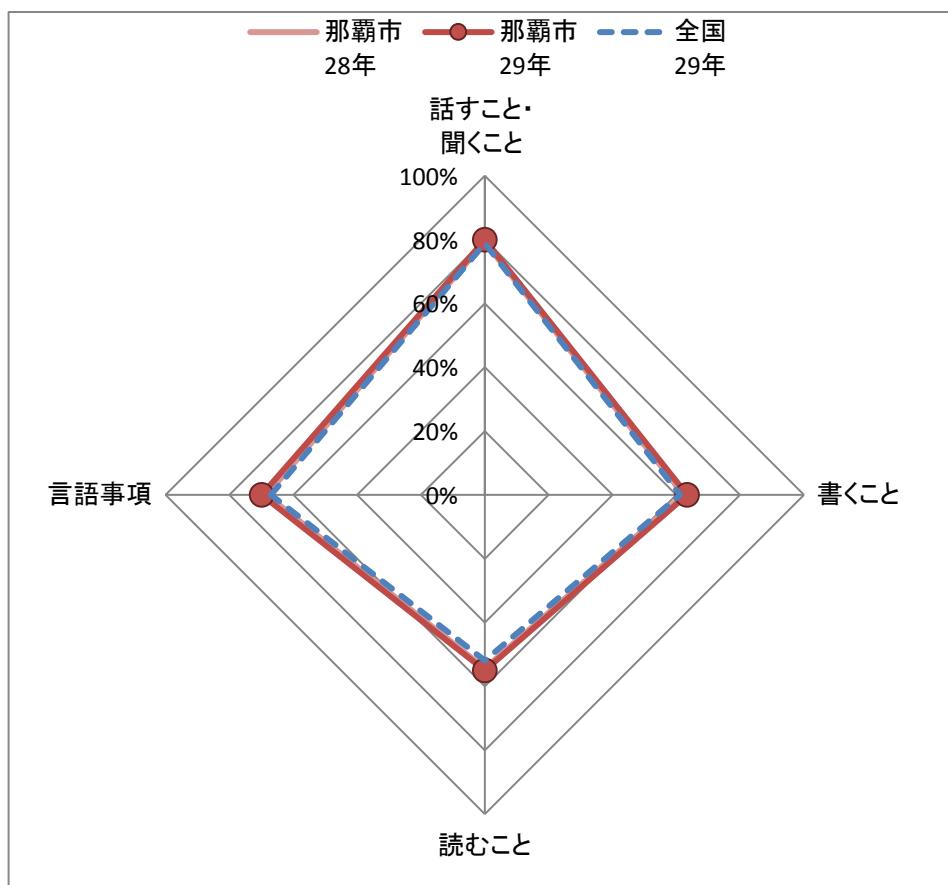


## 【第4学年 国語】

平成29年度那覇市標準学力調査

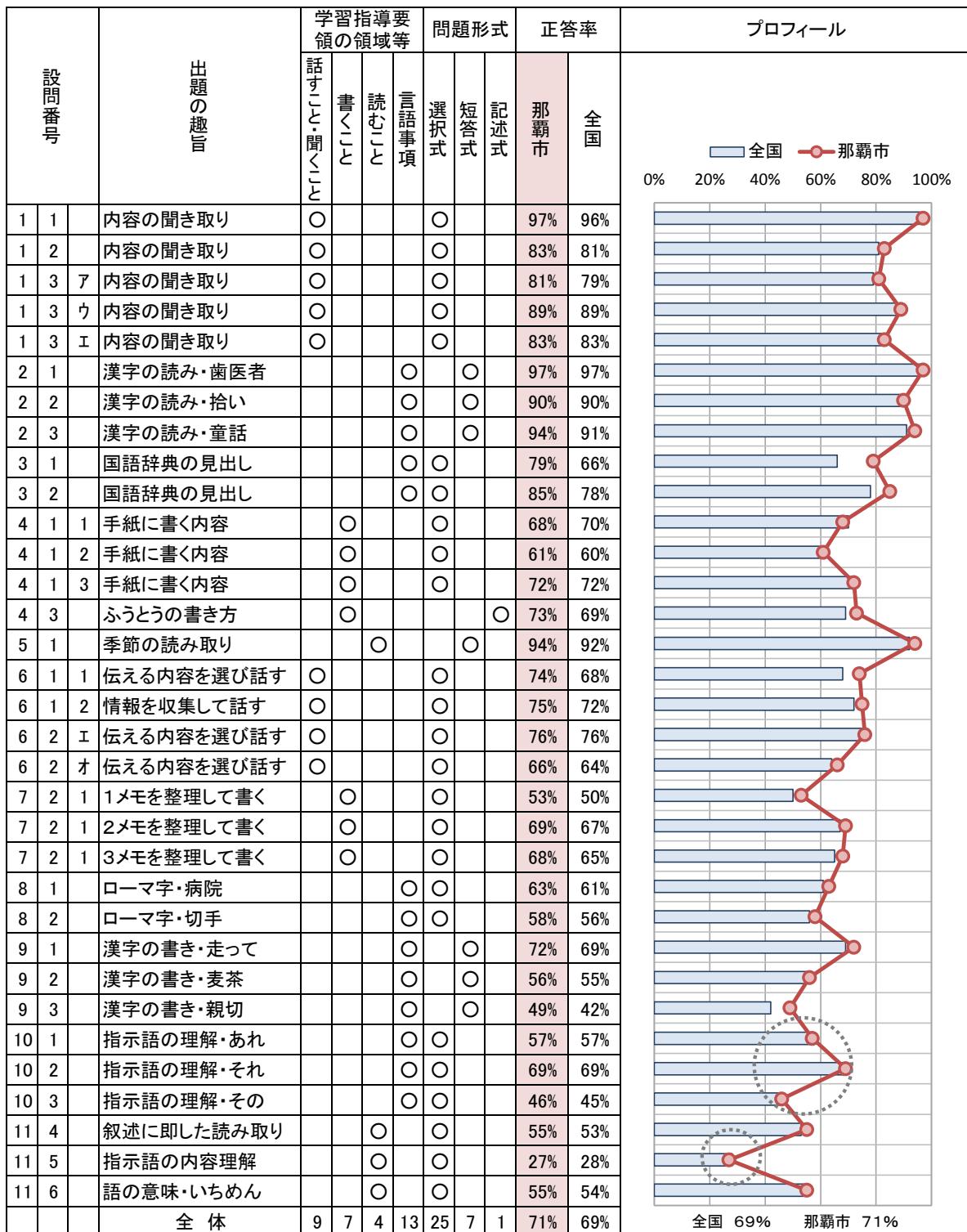
### 領域別結果（昨年度・全国との比較）

第4学年 国語	那覇市 28年	那覇市 29年	全国 29年
話すこと・聞くこと	79.3	79.9	78.8
書くこと	62.3	63.4	61.2
読むこと	54.4	55.0	51.9
言語事項	68.4	69.9	67.0



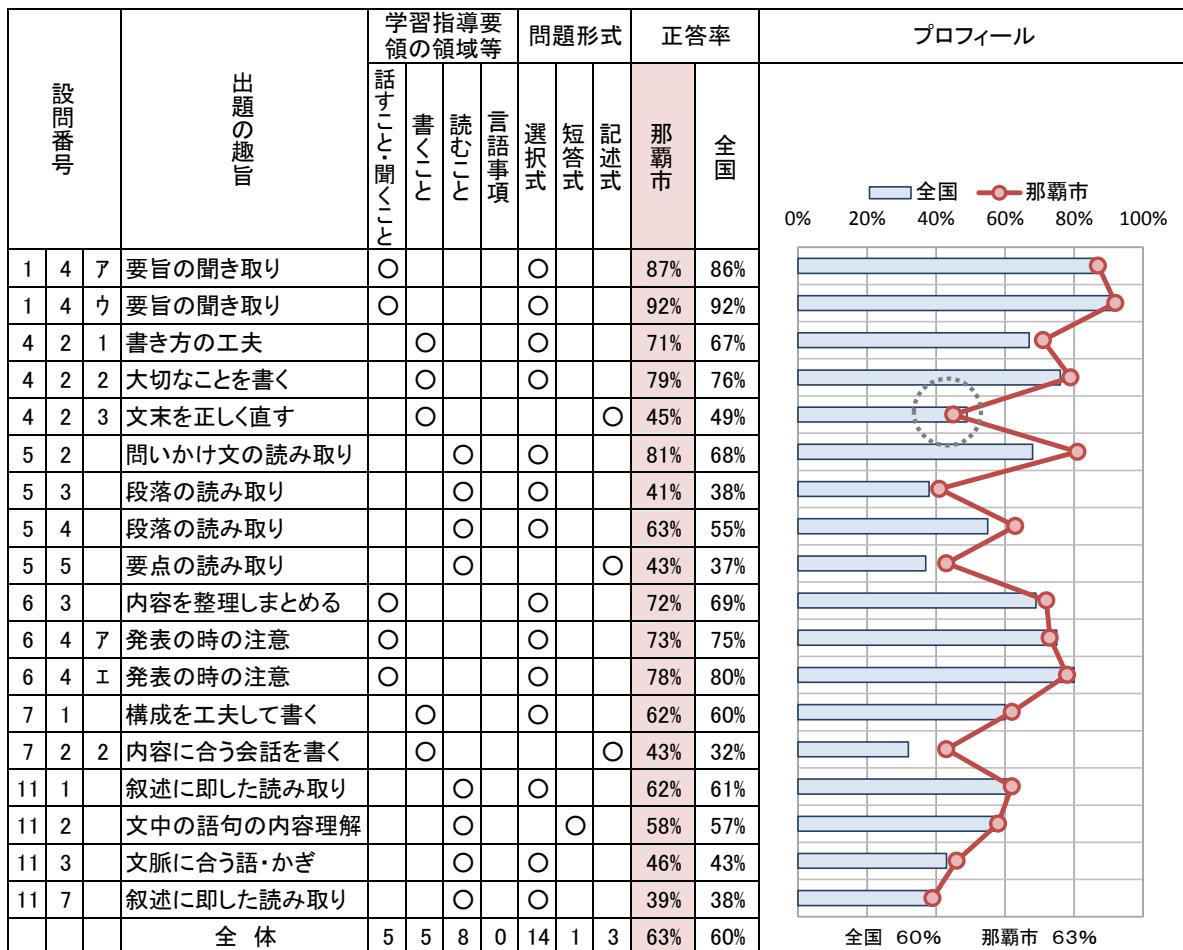
## 第4学年 国語 要素1

## 問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素1 知識・理解、技能】



## 第4学年 国語 要素2

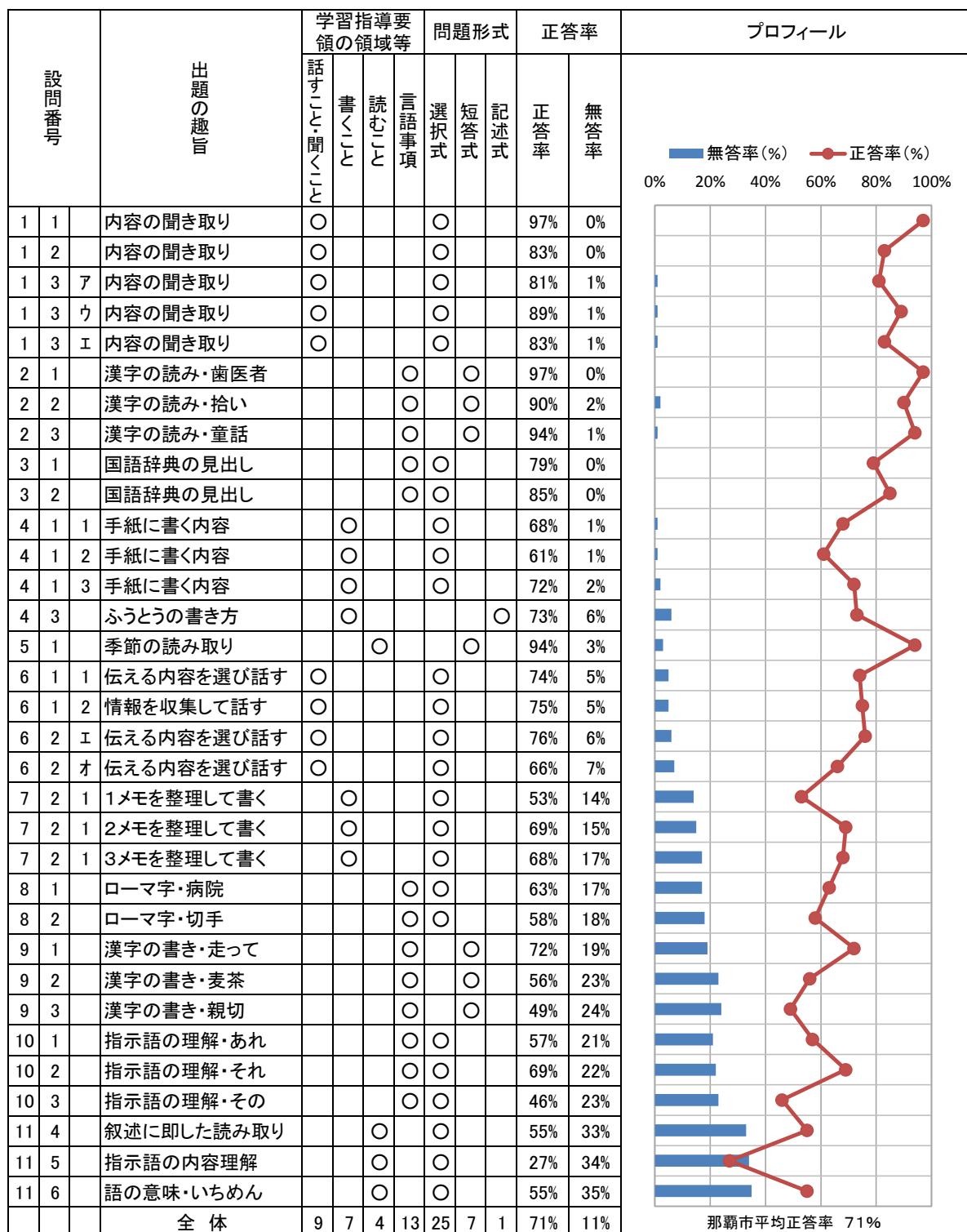
## 問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素2 思考力・判断力・表現力】



…課題となる問題として、考察コメントがあります。  
P27～P29参照

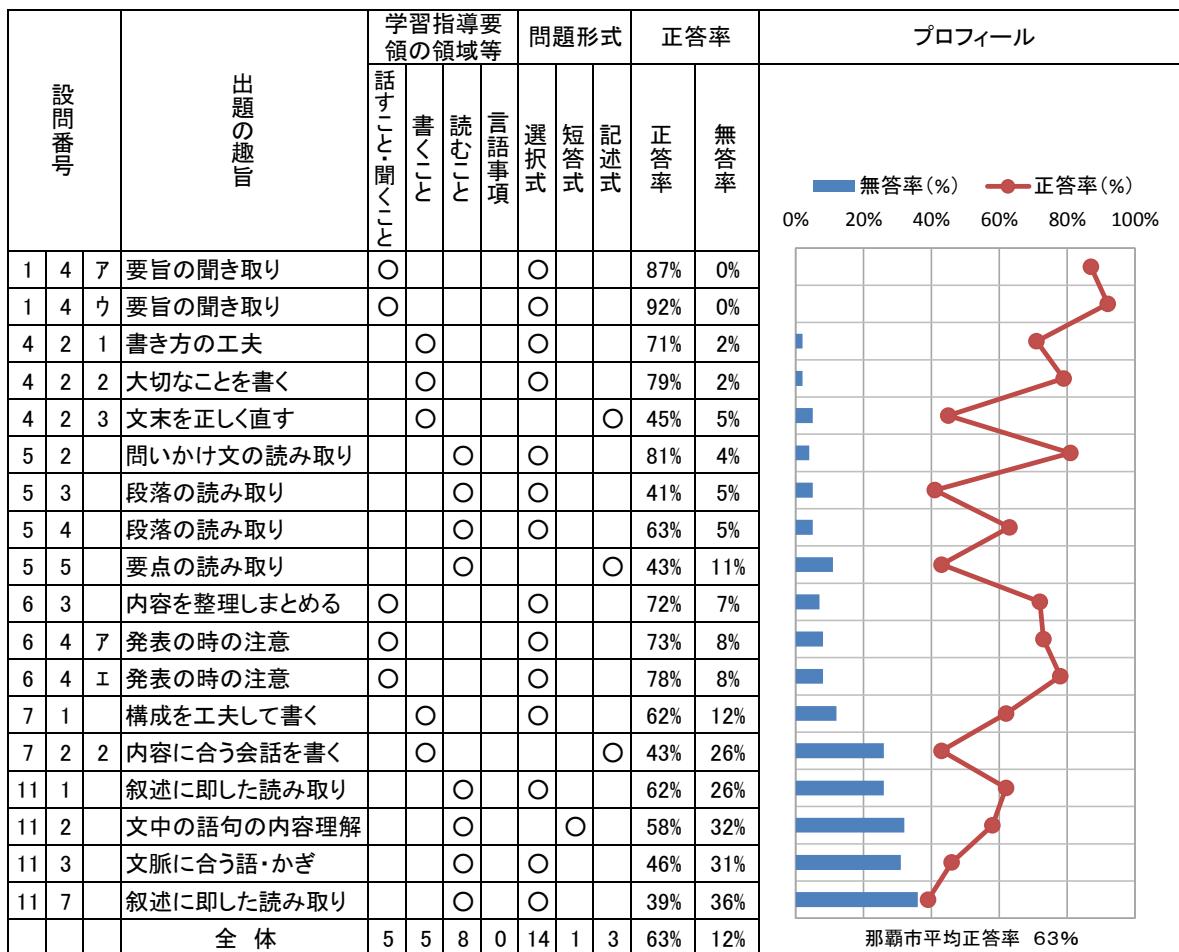
## 第4学年 国語 要素1

## 問題別調査結果 正答率－無答率 【要素1 知識・理解、技能】



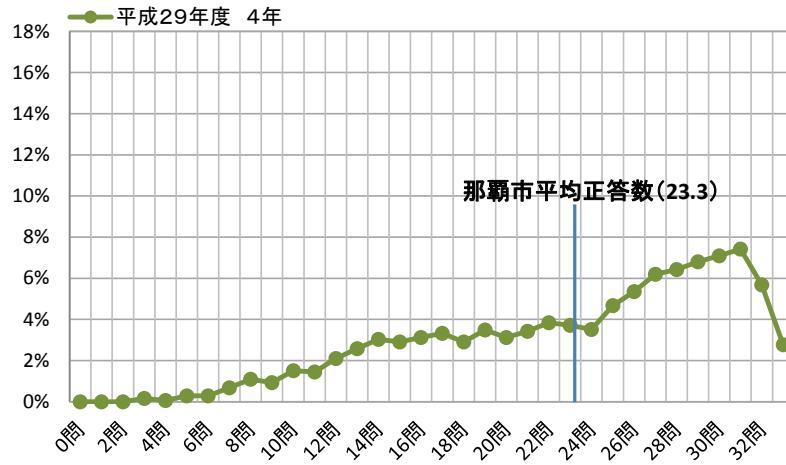
## 第4学年 国語 要素2

## 問題別調査結果 正答率－無答率 【要素2 思考力・判断力・表現力】



## 度数分布【要素1 知識・理解、技能】

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
那覇市	3099	23.3 / 33	71%	25問	7.0

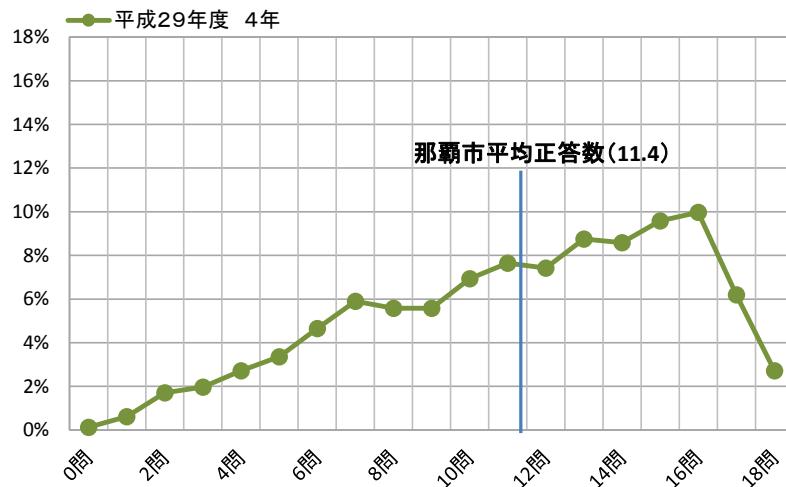


## 第4学年 国語

正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	0	0.0%
1問	0	0.0%
2問	0	0.0%
3問	5	0.2%
4問	2	0.1%
5問	9	0.3%
6問	9	0.3%
7問	21	0.7%
8問	34	1.1%
9問	29	0.9%
10問	47	1.5%
11問	45	1.5%
12問	65	2.1%
13問	80	2.6%
14問	94	3.0%
15問	90	2.9%
16問	97	3.1%
17問	103	3.3%
18問	90	2.9%
19問	108	3.5%
20問	97	3.1%
21問	106	3.4%
22問	119	3.8%
23問	115	3.7%
24問	109	3.5%
25問	145	4.7%
26問	166	5.4%
27問	192	6.2%
28問	199	6.4%
29問	211	6.8%
30問	220	7.1%
31問	230	7.4%
32問	176	5.7%
33問	86	2.8%

## 度数分布【要素2 思考力・判断力・表現力】

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
那覇市	3099	11.4 / 18	63%	12問	4.2



正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	4	0.1%
1問	19	0.6%
2問	53	1.7%
3問	61	2.0%
4問	84	2.7%
5問	104	3.4%
6問	144	4.6%
7問	183	5.9%
8問	173	5.6%
9問	173	5.6%
10問	215	6.9%
11問	237	7.6%
12問	230	7.4%
13問	271	8.7%
14問	266	8.6%
15問	297	9.6%
16問	309	10.0%
17問	192	6.2%
18問	84	2.7%

小学校4年国語において、要素1(基礎的な内容)で平均正答率が71%、要素2(活用的な内容)で平均正答率が63%であった。要素1では、33問中の中央値が25問、要素2では、18問中の中央値は12問であった。要素1の標準偏差が7.0、要素2の標準偏差が4.2といずれも得点の散らばりが大きい分布となっており、習得の程度に差がある傾向がみられる。それぞれの児童の課題を発見し、特に低得点の児童には基礎的な内容を確実に習得させたい。

# 傾向の分析と課題となる問題

## －小学4年 国語－

### ●全体的な傾向●

#### 【要素1 知識・理解／技能】

##### 成果

- 「話すこと・聞くこと」の聞き取り問題は、内容を正しく聞き取ることがよくできており、望ましい状態にあると考えられる。

##### 課題

- 「漢字の書き」・「ローマ字」は、基礎的な言語事項であるにもかかわらず、6割前後の通過率であり、定着が悪い。
- 指示語の内容をとらえる問題（大問10・11—5）で通過率が低く、課題がみられる。

#### 【要素2 思考・判断・表現】

##### 課題

- 「読むこと」では、説明文で段落の構成を読み取ること、物語文では、内容の詳細を読み取る力に課題がみられる。
- 「書くこと」の中で、手紙を書く場面において、適切な表現を書くことに課題がみられる（大問4—2—3）。

#### 【指導にあたって】

- 高学年では、自分の伝えたいことを、場にあった表現で、適切に表現できる力の育成が求められる。語彙力はその基本となる。様々な言語活動を日常からとりいれていきたい。
- 後半の無答率が高い。一問一問の解答に時間をかけすぎていることも考えられる。全体的な見通しを持って作業する力も養いたい。

### ●課題となる問題●

\* 「知識・理解／技能」・「思考・判断・表現」の要素別に、次ページ以降、分析を掲載しています。表に掲載しているカテゴリーの説明は以下の通りです。

問題番号	問題内容	通過率	無答率	全国	形式
10 1	指示語の理解・あれ	57	21	57	選択式

通過率：那覇市児童の正答率 (%)

無答率：那覇市児童の無解答率 (%)

全 国：全国児童の正答率 (%)

形 式：解答形式

## 小学4年（小学3年学習内容）国語【知識・理解／技能】

問題：10-1・2・3

【3・4学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）イ（ク）】

11-5

【3・4学年 読むこと C（1）ウ】

問題内容：指示語の内容を正しく捉えたり、使ったりすることができるか。

問題番号		問題内容	通過率	無答率	全国	形式
10	1	指示語の理解・あれ	57	21	57	選択式
	2	指示語の理解・それ	69	22	69	選択式
	3	指示語の理解・その	46	23	45	選択式
11	5	指示語の内容理解	27	34	28	選択式

### 誤答分析・指導にあたって

10-1でア、3でウを選ぶ誤りが多い。1は、遠いものを指す指示語として正解の「あれ」ではなく、「これ」を選ぶ誤り、3は、二文ある文のうち、前の文（過去）と後の文（現在）の関係を正しく捉えられていない誤りである。

11-5は、指示語の内容についての問い合わせはあるが、文章の読解力が問われる問題である。最後の文章題であるため無答率も高いが、解答している率から考えても通過率が低く、文章の中で指示語が何を指しているか、文と文との関係などを正しく理解できていないと考えられる。

また、この部分は文中で、現実とファンタジーの交錯が始まる場面であるため、その理解ができていないことも考えられる。

指示語の問題ではすぐ前の文章から答えを探して終わりにしてしまいがちになるが、この問題のように、一段階深い理解が必要になる指示語もある。

そのため、指示語を置き換えてもしっくりこない場合には、最後まで文章を読み通し、文章全体を理解した上で、もう一度指示語が指すものを考へるようにさせることも指導したい。

課題 小学4年（小学3年学習内容）国語【知識・理解／技能】

問題：10-1-2-3  
【3・4学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）イ（ク）】

問題：11-5  
【3・4学年 読むこと C（1）ウ】

問題内容：指示語の内容を正しく捉えたり、使ったりすることができるか。

正解：あれ 誤答：これ  
あれ…遠いものを指す・これ…近いものを指す

正解：その 誤答：この  
二文…前と後ろの文の関係  
その…過去、この…現在

指導事項  
こ・そ・あ・ど  
言葉

改善 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解する。

指導事項 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（ク）

指導  
○読みの指導の中で、  
段落相互の関係を端的に示す手がかりであることを指導。  
○文章を書く様々な機会をとらえて、  
文脈に沿って指示語や接続語の役割を理解し、使うことを指導。

○問題 11-5 指示語の内容理解 無答率-34%  
現実とファンタジーの交錯が始まる場面

指示語を置き換えてみる。

### 指導例

#### 並び替え

一つの文章を段落単位でバラバラにしたものを作り、それを正しく並び替える。その際、段落の始まりに指示語があるものを選ぶ。接続語や指示語にも注目して並び替えていく。最後に文章を正しく並び替えた後に、指示語による文章のつながりなどを確認すると、理解を促進できる。

## 小学4年（小学3年学習内容）国語【思考・判断・表現】

問題： 4-2-3 【3・4学年 書くこと B(1)エ(2)エ】

問題内容：相手や目的に応じ、文章の常体と敬体との違いに注意し、文章の間違いを正すなどして、案内状などの手紙を書くことができるかどうかを見る。

問題番号	問題内容	通過率	無答率	全国	形式
4 2 3	文末を正しく直す	45	5	49	記述式

### 誤答分析・指導にあたって

常体を正しく敬体になおすことができていない。

手紙を書く際には、形式にのっとって書くことが必要になるが、相手に応じて書き方を考えることにも注意する必要がある。特に目上の方などに敬体を使って文を書くことができることが大切となる。自分が書いた文章を読み返す際には必ず、文末が敬体または常体のどちらかに統一されていることを確認させるようにしたい。同時に、現在形や過去形の区別にも注意させたい。

### 指導例

#### お礼の手紙を書く活動

日頃から、お礼の手紙や葉書を書くと言った活動を取り入れ、形式にのっとって書く経験を日常的にさせるようになりたい。その際に、返事（または感想）をいただいた場合には、掲示や学年便りなどで児童に紹介することで、手紙を書くことの良さ、楽しさを実感させたい。

また、手紙を書く際には、「誰に」「なんのために」書くのか、という「相手意識」「目的意識」をしっかりと持たせてから書かせるようにしたい。

課題 小学4年（小学3年学習内容）国語【思考・判断・表現】

問題： 4-2-3 【3・4学年 書くこと B(1)エ(2)エ】

問題内容： 相手や目的に応じ、文章の常体と敬体との違いに注意し、文章の間違いを正すなどして、案内状などの手紙を書くことができるかどうかを見る。

常体を正しく敬体に直すことができない  
(課題…常体と敬体が混在)

指導 「誰に」…「相手意識」  
「何のために」…「目的意識」

・読み直して、文末を敬体・常体に統一  
・現在形・過去形の区別も注意

言語活動 日頃からお礼の手紙を書く活動

<国語の授業での大切な指導> ⇒ 語彙

児童の発した言葉を蓄積、掲示

語彙

課題…小学校低学年の学力差の大きな背景には、語彙の量と質の違いがある。

小学校学習指導要領解説（国語編：H29・6）

各学年での指導内容

低学年…身近なことを表す語句

中学年…様子や行動、気持ちや性格を表す語句

高学年…思考に関わる語句

思いを表す言葉の蓄積

